慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「道徳的情操論」と「国富論」（上）
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.5 (1922. 5) ,p.581(1)- 592(12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220501-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ラファルグ原著　千葉雄次郎譯

社會主義

四六判　上製本　定價二圓三十錢　送料十二錢

マルクス主義の上より見たる徹底的社會批判にして、資本主義の根蒂牢固たる現代日本にとりて、大に刮目すべき價値あるものとす。殊に篇中『怠ける權利』の一文は、佛國勞働階級をして其制度の缺陷に對し覺醒せしめたる雄篇として、一大炬光を放てり。江湖諸賢の愛誦を待つ。

最新刊

解放叢書

◇財産進化論　ラファルグ著・高畠素之譯　定價送料　二・二〇　二・二〇

◇資本論解說　カウツキー著・高畠素之譯　マルクス　定價送料　三・二〇　三・二〇

◇社會主義社會學　高畠素之著　定價送料　二・三〇　二・三〇

◇ベーベル自叙傳　波多野鼎譯　定價送料　二・五〇　二・二〇

東京大阪　京橋三桶　京橋休桶　東京大阪　振替　八一六三三　五五一七二

町南

大鐙閣

三田學會雜誌　第十六卷　第五號

論說

「道德的情操論」と「國富論」（上）

高橋誠一郎

一

アダム・スミスは一千七百五十九年、即ち彼れがグラスゴオ大學教授に任命せられてより九年の後に至り、初めて其の二大偉著の一を完成せり。「道德的情操論」は即ち是れにして、スミス時に年、壯齡三十六。何等の文獻なくして既に其の名聲を蘇國の一般社會に博しつゝありしスミスは、此の書の上梓と共に、當代第一流の著作家中に伍するの世界的承認を經たり。本書の第一版は五百五十一頁より成る

オクスヴォ判一卷として世に出づ。（John Rae は此の書が初めオクスヴォ版二卷として出版せられたる旨を記せるも誤解なるが如し。Rae, Life of Adam Smith, 1895, p. 141. 並びに Francis W. Hirst, Adam Smith, 1904, p. 46. を對照せらるる可し）。初版の表題頁は左の如く記されたり。

THE
THEORY
OF
MORAL SENTIMENTS
BY ADAM SMITH

Professor of Moral Philosophy in the
University of Glasgow.

LONDON
Printed for A. MILLAR, in the Strand
and A. KINCAID and J. BELL in Edinburgh.
MDCCLIX

此の書の結構の精巧と行文の流暢と有效なる引例の豐富とは普く承認せられ嘆美せられて、本書は其の出版の當時より頗る好評なりしが如し。本書の寄贈を受けたるデヴィッド・ヒュームは一千七百五十九年四月十二日倫敦よりスミスに送狀を送りて、聲望は決して眞價の標準に非ざることを警告し、聖賢の王國は自己の心胸なり。若し又た彼れにして更らに其の以上に注意を向くるとせば、そは惟り偏見に煩さるゝことなく、其の事業を檢討するの力ある精撰せる少數者の判斷に對するのみなる可し。洵に多數者の稱揚よりも强き虛僞の推定は存することを能はざる可し。而してフォーシオン（Phocion）は彼れが庶民の喝采を受けたる時には常に自ら甚しき粗忽を行へるに非ざるかを疑へりと云ふに非ずや。斯くて御身は總べて以上の省察によりて當然最惡なるものを覺悟せるならんと想像するが故に、余は進みて世人が甚しく御身の書を稱揚せんとしつゝあるの觀あるを以て、同書が極めて不幸なりし悲觀的報道を御身に致す可し、云々と戲言を交へて此の書が倫敦に於て好評なることを物語りつゝあるなり。（J. Hill Burton, Life and Correspondence of David Hume, 1846, vol. II., p. 55.）。ヒュームは同年七月二十八日再び同一

の事項に就きて報道し、エドマンド・バアーク（ヒュームは Bourke に綴る）が此の書に傾倒すること大なる旨を傳へたり。（ibid., p. 59.）。バアークは Annual Register 誌上に於てスミスを稱揚して新奇にして同時に又た全然自然なる倫理學的推究の路を開けるものなりと做せり。（Annual Register, 1776, p. 485.）。

前掲七月二十八日附ヒュームの書翰は當時スミスが第二版の準備に着手しつゝありしことを示すも、而も新版は一千七百六十一年に至るまで發表せられず。スミスは其前年四月四日グラスゴオより出版者ミラーの少壯有爲なる組合員 William Strahan に書を寄せて、「余は余が曾つて貴下に致せると同一の加筆に、其の後、余の氣付きたる可成りに多くの訂正及び修飾を加へて四五便以前にミラー氏に回附せり。若し余の注意を逃れて前版中に殘存しつゝある誤植あらば、貴下が悉く之れを訂正せられんことを望む。他の點に關しては余は可成りに精確に余が貴下に交付せる案文に從つて印刷せられんことを欲す。西班牙の俚諺に曰く、人は姦婦の夫たらずして、而も自ら斯く信ずるよりも寧ろ姦婦の夫にして而も露、其の事實を知らざるを勝れりとすと。之れと等しく、余は言う、著作家は正しくして而も誤れるものと自己を信じ、又たは斯く邪推することすらあるよりも往々にして誤を犯しながら、自ら正しきものと信ずるに如かず」と云へり。蓋しスミスは Strahan が自己の意見に據りて其の原文に專擅なる變更を加ふることを幾分危虞する所ありしなる可し。彼れは出版者が其の書を通讀して彼れに訂正の忠言を與ふることを欲したるも、而も、同時に、「貴重なる私的判斷の權利――之れが爲めに貴下の祖先はかの法王並びに王位の窺覦者を排斥したる――を保留せん」ことを主張して曰く、「余は貴下が法王よりも遙かに過誤少なきことを信ずるも、而も余は新教徒なるが故に、余の良心は余をして聖典に基かざる總べての權威に服從するを躊躇せしむるなり」ッ。（A Catalogue of the Library of Adam Smith, Author of the 'Moral Sentiments' and 'the Wealth of Nations,' edited with an Introduction by James Bonar, 1894, pp. ix-x.）。

レーは「道德的情操論」の第二版が前掲七日附の書翰中に於てヒュームの期待せる變更若しくは加筆を毫も包有することなき旨を述べ、斯く上掲 Strahan 宛の書簡中に明かなるが如く、彼れが一千七百六十年に出版者に交付したる加筆を脱漏せる理由を發見すること難しと做せるも（Rae, op. cit. pp. 148-9.）、而も同版を以て純然

なる第一版の重刻と爲すは非なり。事實上第二版中に於ける訂正及び變更は頗る多く、且つ同版は遙かに小活字を以て組立てられたるを以て、五百五十一頁なりし第一版は、其の原文に於て幾分の增補ありしに拘らず、四百三十六頁に短縮せられたり。而してボナーは前掲書目中に於て A Dissertation on the Origin of Languages. が第二版に於て合卷せられたる旨を記し（Catalogue, p. xi.）、レーも亦た同樣なる記述を行へりと雖も（Rae, op cit, p. 149.）、而も Dissertation が第三版に至るまで追錄せられざりしことはハアストの所言の如し。（Hirst, op. cit., p. 61.）

第三版は初めて A Dissertation on the Origin of Languages. を附錄として一千七百六十七年に公にせられたり。それは三百三十七頁より四百三十八頁に亙り、其の初めに Considerations concerning the First Formation of Languages, and the Different Genius of Original and Compounded Languages. と題されたり。而して第四版は一千七百七十四年、第五版は同八十一年を以て刊行せられたり。最後に本書は一千七百九十年、著者の死に先立つ僅かに以前（スミスの死は同年七月十七日）大增訂を加へたる第六版を出せり。其の表題頁は下の如し。The Theory of Moral Sentiments, or an Essay towards an Analysis of the Principles bywhich men naturally judge concerning the Conduct and Character first of their Neighbours anrd aftewards of themselves. To which is added A Dissertation on the Origin of Languages. By AdamSmith, LL. D, Fellow of the Royal Societies of London and Edinburgh, one of the Commissionersof His Majesty's Customs in Scotland, and formerly Professor of Moral Philosophy in the Universityof Glasgow. The Sixth Edition, with considerable additions and corrections, in two volumes. (Strahan& Cadell, London; W. Creech and J. Bell & Co., Edinburgh.)。舊版の定價は六志なりしが第六版は十二志を以て賣出されたり。

「道德的情操論」の改訂は實にスミスが晩年の大事業なりき。彼れは强烈なる病苦に患されつゝありし一千七百八十九年末に其の增補の筆を運びつゝありしなり。（Dugald Stewart, An Account of the Life and Writings of the Author, prefixed to Smith's Essays on Philosophical Subjects, 1795, p. lxxxxix. note.）。新版刊行の前に於て著者と出版者との間には、既に本書の舊版を所有せる者の爲めに增補の分を別版として出版するの適否に關して意見を異にせり。出版者 Cadell は出版業者の德義上より、新版の賣れ行きを妨害すると明かなるに拘らず、此の説を維持したるも、スミスは全

然其の著の賣れ行き如何に關せず、其の著の性質が彼れの提案を承認すること能はざらしむるの故を以て之れを拒絶せり。スミスは時に恰も巴里に赴くの途次倫敦に在りしダッガァード・スチュアートを通じて其の決心を傳達せしめたり。而してスチュアートが Cadell と會見したるの顚末を報告せる一千七百八十九年五月六日の消印を有するスミス宛の書翰は後年カンニンガム教授の所藏する所と爲り、レーは其の「スミス傳」中に之れが全文を掲載せり。（Rae, op. cit., p. 426.）。

二

スミスは「道德的情操論」の開卷第一頁に於て述べて曰く「假令ひ人間は如何に利己的なりと想像せられ得るも、其の本性の中に、彼れをして他人の運命に關與せしめ、彼れ等の幸福をして彼れに取りて必要ならしむる一定の元質存すること明かなり。然も彼れは之れを見るの快感を除きては之れよりして何物をも取得することなきなり。吾人が他人の不幸を見、若しくは頗る明確なる體樣に於て之れを思料せしめらるゝ場合には之れに對して吾人の感ずる情緒たる憐憫若しくは慈悲は此の種のものに屬す。吾人が他人の悲哀によつて悲哀を催すこと多きは極めて明白なる事實にして、之れを證明するが爲めには何等の例證をも必要とせざるなり。即ち此の情操は凡ゆる他の人間本性の本原的情熱と等しく決して有德にして仁慈なる人士のみに限らるゝものにあらず、（固とより是れ等の人々は恐らく最も微妙なる受感性を以て之れを感ずるなる可きも）。最大なる惡漢、最も冷酷なる社會諸法規の侵犯者と雖も、全然之れを缺くものに非ず」と。（The Theory of Moral Sentiments, Part I. section I. chap. I.）。

倫理的判斷は惟り他人の行爲に關するものにして、良心の裁決は他人が吾人自身に下したる判決の反響に過ぎず。宛も全然孤獨なる存體は自己が美なるや否やを知らざると等しく、又た自己が道德的なりや否やをも知ることなかる可し。是れに由りてスミスはヒュームと等しく同情を以て全倫理哲學の基礎たらしめたり、同情なくんば一切の倫理的判斷は存せざる可し。

「吾人は他人が感ずる所のものに就きて何等直接の經驗を有することなきを以て、吾人は他人が感動せる體樣に就きては何等の觀念をも形成すること能はず。然れども吾人は吾人自身が之れに等しき地位に在りて感ず可き所のものを思考

するに由りて之れを形成し得るなり」。(ibid.)。斯くて吾人は想像に由りて吾人自身を他人の地位に置き、吾人は全然同一なる苦痛を忍びつゝあるものとして吾人自身を思考し、吾人は宛も其の肉體内に入り、幾分彼れと同一人格と爲り、是れに由りて又た其の感覺に就きて一定の觀念を形成し、而して縱し程度に於て弱きも、全然彼れ等と異なることなきものを感ずることすらあるなり。(ibid.)。斯くしてスミスは人間の本性中に利己的ならざる一定の元質を看出し、而して之れを以て諸他の人間本性の本原的情熱と等しく萬人に普遍なるものと觀たり。彼れの倫理學は這の普遍なる人間本性の本原的情熱に其の根柢を有するものなり。スミスはヒュームが力說せる、知覺せられ若しくは推知せられたる德の結果に對する同情的快感の實在なること及び重要なることを拒むものに非ず。然れども彼れは一般道德的情操の主要部分は是れに由りて構成せられずして、寧ろ行爲若しくは表現を誘起する諸衝動に對する更らに直接なる同情によるものと思惟せり。彼れは此の同情の自發的發動を以て人間性の原始、不可說の事實として取計へるなり。

然るに彼れが「道德的情操論」初版の刊行より十有七年を隔てたる一千七百七十六年に至つて出版せられたる「國富論」は先づ分勞を以て特に人間社會を自然的狀態より文化的狀態に導く所のものと觀たり。而も斯くまで有效なる分勞は本來其の招致する一般的富裕を豫見し、又た企圖する人間睿智の結果に非ず。そは斯くの如き廣大なる效用を毫も思考することなき人間本性の傾向の必然的結果なり。即ち或る物を以て他の物と交換せんとする (to truck, to barter, and exchange) 傾向是れなりと做せり。人間は常住不斷無數の人の協力と援助とを必要とするものなり。「而して彼れは惟り彼れ等の仁愛のみに依つて之れを期待するを得ず。彼れにして若し自己の爲めに他人の自愛心を刺激し、而して彼れ等に示すに、彼れが彼れ等より求むる所のものを彼れの爲めに行ふは彼れ等自身の利益なることを以てするを得ば、彼れは其の目的を達し得るに庶幾きものなる可し。あらゆる種類の取引を他人に對して提起する者は總べて之れを行はんことを期するものなり。我が欲する所のものを我れに與へよ。然らば汝は汝の求むる此の物を與へらる可しとは總べて斯くの如き企圖の意味する所なり。而して吾人は此の方法

に據りて、其の要求する扶助の甚大なる部分を相互に取得するなり。吾人は肉屋、酒屋、若しくは麵麭屋の仁愛に依つて吾人の食料を得んとするものに非ずして、唯だ彼れ等が自己の利益を顧慮するの念に訴へて之れを得んとするものなり。吾人は彼れ等の仁慈に依頼せずして其の自愛に訴ふるなり。而して彼れ等に説く吾人自身の必要を以てすることなく、彼れ等の利益を以てするなり」。(Wealth of Nations, bk.I. chap. ii.)。

即ちスミスは其の倫理學の體系を同情の原則に置くと共に、其の經濟學の體系を自利の原則に基かしめたるの觀あるなり。斯くてセリグスンの言ふが如く (Edwin R. A. Seligman, Principles of Economics with special reference to American conditions, 7th ed., 1916, p. 34)、人間行爲の二個の主たる動機は財囊と良心なり、經濟人は前者に由りて代表せられ、倫理人は後者に由りて代表せらる、而して經濟學と倫理學とは互に相交渉する所なしと做すの觀念を生ずるに至れり。洵に「國富論」が「道德的情操論」の同胞愛若しくは同情を殆んど全く包有することなく、主我主義的なるマンチエスター學派の聖典と爲れるの事實に對して疑念を抱く者少なからざる可し。然れども本原に遡りて善く此の兩著の關係を探究する者に取りては解決は想像せられたるよりも遙かに容易なるものなくんばあらず。（未完）

リカルドオの價値論（四）

小泉信三

（十二）

Principles は一八二一年の早春其第三版を出したり。Ricardo は意の如く其價値論の稿を改むるに遑あらざりしも、猶ほその「價値の難問題に關する……意見を舊版に於けるよりも十分に説明せんと努め」、之が爲め「第一章に若干の增補を加へたり。」而して此增補の如何なる性質を帶ぶるものなるかは既揭著者の書簡を讀める者の既に推測し得るところならん。Ricardo は舊版に社會發達の初期に於て單に貨物の交換價値は勞働量に依りて、若しくは一に solely 勞働に依りて定まると云ひしを殆ど專ら almost exclusively 勞働に依りて定まると改め (Principles 3rd ed. pp. 3, 13)、舊版に於ては五小節に分てる同章を七小節に分ち（註）就中貨物の價値は費されたる相對的勞働量に依りて決せらるとの原則の、固定資本使用と流動資